

SHIRAKOBATO

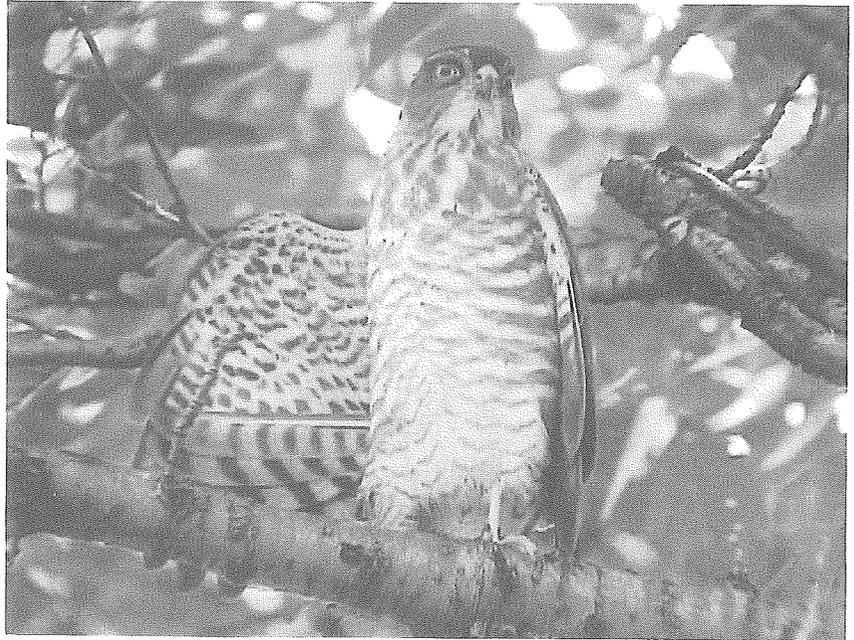
しらこぼと



1996. 9

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 149

日本野鳥の会 埼玉県支部

森に親しもう！ (その2) —森の四季入門—

はじめに

四季の移り変わりは、森に様々な表情を見せてくれます。ここでは「森に親しもう—埼玉の森入門—」(本誌1996年6月号)の続編として、森の四季折々の自然観察のポイントとそれについてのフィールド図鑑について説明しましょう。

春

落葉広葉樹の葉が開く前の森は、春のまぶしい光が林床まで届く短い期間に、花を咲かせ実を付けるカタクリ、スマレ類、フクジュソウなど春の女神のような草花の季節です。スマレ類については、

いかりまさし 1996 日本のスマレ 山溪ハンディ図鑑6 山と溪谷社 東京
が写真で検索でき楽しい本です。

春は、また樹々に巣をかける鳥たちの繁殖の季節でもあります。双眼鏡を使って樹を注意深く見てゆくと巣が見つかる場合があります。決して近づかず遠くから見るにとどめましょう。巣については国内のフィールド図鑑はありませんが、巣のイラストが描かれている次の本が、日本で見られる鳥も割合多く掲載されており便利です。

Hanzak, J 1971 A Concise Guide in Color Birds' Eggs and Nests Hamlyn London, New York, Sydney, Tronto



夏

森の樹々や草花がせいっぱい力を出して

活動するため、それに合わせて昆虫も花粉やみつを求め、あるいは葉を食べるため集まって来ます。樹々や草花の種によって集まって来る昆虫は決まっています。それを解説した

中山周平 1978 野山の昆虫 一昆虫II—自然観察と生態シリーズ2 小学館 東京
が便利です。樹々の間を、花を求めてチョウが舞います。1/3位の種類のチョウは採集しなくても識別できます。チョウの飛ぶ時の模様から検索できる

日高敏隆、藤井恒、海野和男、今森光彦
1984 フィールド図鑑 チョウ 東海大学出版会 東京
があります。とにかく昆虫の名前を、かたばしから調べたいときは

朝比奈正二郎他 1977 旺文社学習図鑑携帯版 昆虫 旺文社 東京
が、分布図も入っており、とても使いやすくできています。

樹にからまったつるに、シダ類やササの陰に、林道に沿って森のここ、かしこで咲く花は決して目立ちませんが、よく探すと小さな個性的な姿をしています。草花の花の色は誰でも見分けがつくので、花の色で引く図鑑はフィールドではとても便利です。プロの研究者も使っています。全国版は無く、長野県で見られる冷温帯や亜寒帯の花を中心としたものが

田中豊雄 1993 増補改訂 野の花、山の花 第3版 ほおずき書房 長野
また、北日本、特に北海道用として

鮫島惇一郎、辻井達一、梅沢俊 1993 新版 北海道の花 増補版 北海道大学図書刊行会 札幌
があり、いずれも科毎や季節別に作られている従来の図鑑より使いやすいため版を重ねています。秩父や日光でしたら、この2冊とも私の経験からフィールド用として十分に使えます。

秋

秋はなんと言っても実りの季節、木の実、



草の実が森のここ、かしこに見られます。中には毒がある実もありますから、くれぐれも注意しましょう。実はその色で種を見分けるのが、一番わかりやすいです。長野県などの冷温帯、亜寒帯の植物の実を扱った

田中豊雄 1989 木の実、草の実 はおずき書房 長野

が、実の色から引くと花まで導びいてくれる楽しい図鑑です。木の実、草の実は赤い色をしたものが多いようです。

秋のもう一方の実りはきのこです。しかし、これも猛毒のものがありますので、食べるときはよく知った人と歩いて教えていただきましょう。きのこは、死んだり弱ったりした樹を分解してゆく役目ですから、例えばアカマツにマツタケの様に、樹の種類によって生えるきのこが決まります。このような観点からわかりやすくきのこを解説したのが、北海道用として作られた次の図鑑です。本州の冷温帯や亜寒帯の森で十分に使えます。

高橋郁雄 1991 北海道きのこ図鑑 亜璃西社 札幌

冬

一面に雪に閉された世界、でも冬眠しないけものは、その足跡を雪の上に残しています。これらのけもの行動の跡をアニマル・トラッキングと呼びます。ユキウサギの後をキツネが追いかけていたり、止め足と言ってユキウサギの足跡が、突然無くなったり、雪上の様々なドラマが読み取れます。

今泉忠明、高崎有起 1986 アニマルトラック・ハンドブック 自由国民社 東京
は、実物大の足跡が描かれており便利です。大きな足跡が雪上に残されており、本書で確

認したら、やはりヒグマだったとの経験も数回あります。冬眠しないヒグマほど、おそろしいものではありません。もっと種類がほしいと言う人には、

子安和弘 1993 フィールドガイド 足跡図鑑 日経サイエンス社 東京

があります。この2冊とも、イヌ、ネコ、ウシ、ウマ、ヒツジ、ヤギなどの家畜の足跡も入れておいてあれば、入門者にとっては便利でしょう。

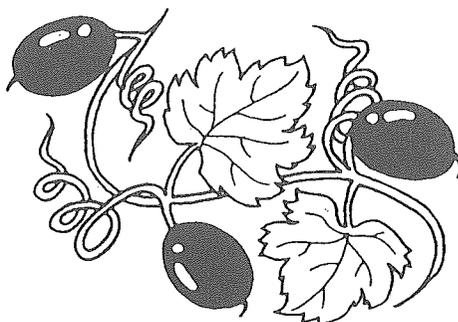
実際のフィールドでは、家畜と野生動物が入り乱れて、アニマル・トラッキングを残していますので、その区別がひとつのポイントとなります。また、フィールド用とは言えず、北海道向けですが、周年を通して様々な動物の活動の跡、足跡、糞とペリット、尿、食痕、動物の身体の一部の落とし物、巣と巣穴、死体などの様々なフィールド・サインを写真で示した次の本は、フィールドでの疑問に答えてくれます。

エコネットワーク 1994 北海道野生動物の痕跡を読む ―フィールド・ウォッチングガイド― 北海道新聞社 札幌

おわりに

森には、ここに紹介した以外にも様々な生き物がいます。シダ、コケ、地衣類などの植物、クモ、両生類、爬虫類などの動物と、まだまだおもしろい生き物がたくさんいます。地方新聞社や大学出版会、地方出版社をたねんに調べて行くと様々なフィールド図鑑に出会うでしょう。いままで気付かなかった新しい生き物を見つけたら、それだけあなたの世界は広がってゆきます。さあ、森へ行き、新しい世界を見つけましょう。

(小荷田行男)



鳥の目から環境を調べよう！（中間報告）

日本野鳥の会埼玉県支部研究部

1995年冬から会員の皆様の御協力をいただいております「鳥の目から環境を調べよう！」調査は、おかげさまで（表1）の様な御回答を得ました。

現在、1995/1996年冬のデータを基に、解析方法の検討、解析ソフトウェアの開発を実施しております。

1995/1996年冬の回答分から、回答を寄せられた会員各位の環境区分、餌台、水場、巣箱を集計した結果を（表2）に示します。また回答を寄せられた方の県内分布を（図）に示します。

次回は本年12月から来年1月まで冬鳥調査を行いますので、前回同様、御協力の程よろしくお願い致します。

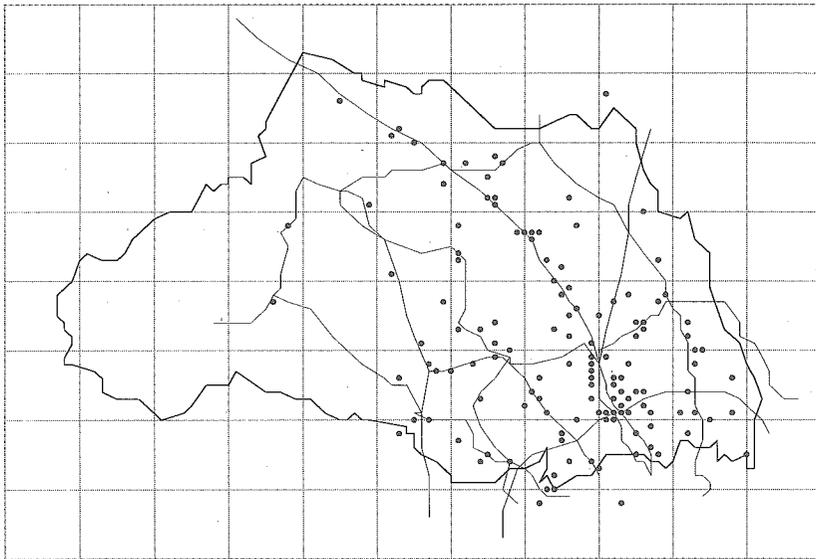
（小荷田行男）

表1 調査概要

調査期間	回答数	鳥種類
1995/1996冬	151件	71種
1996夏	122件 (8/17現在)	集計中

表2 環境区分

環境	件数	餌台	水場	巣箱
1 高層住宅地区	20		1	
2 1～2階建て住宅地区	114	57	43	14
3 商業地区	5	1		
4 工業地区	4	1	2	
5 農業地区(主に畑)	5	2	2	
6 農業地区(主に水田)	3	2	1	1
合計	151	63	49	15



表紙の写真

ツミ（ワシタカ科）

栗橋町の対岸、茨城県在住の会員です。表紙写真にビデオプリントでもよいとありましたので、35ミリ写真の精緻さにはとうてい及びませんが、初めて応募します。

今年の春、市内でツミが営巣し、5月は抱

卵、6月は4羽の雛を育て、7月にかけて次々と巣立っていきました。

これは、末っ子かとおもわれる幼鳥がリラックスした一瞬のひとこまです。

小松崎 清（古河市）

地鳴きコーナー

台風プレゼント

吉原早苗 (郡山市)

楽しい仲間とビールのお蔭で船酔いにもならず、目が覚めるとそこは三宅島でした。イソヒヨドリが出迎えてくれた港をあとに、まずは大路池へ。バスを降りるとアカコッコが、そしてイジママシクイ、カラスバト。初めてお目にかかる鳥達にウキウキ楽しい1日目は暮れ、翌朝「台風のため船が欠航」のニュース。空港に急がれたお仕事組には申し訳ないと思いつつ、私達ケセラセラ組は島一周の旅へ。雄山のサウナも良かったし椎取神社は島独特の自然が感じられて大変印象に残りました。午後には、残念ながら飛行機に乗れなかったお仕事組も加わって、なぜか漁協の餅撒きへ。私は三袋だったけれど、十袋も取ったつわものも。そのあとは島の温泉と、盛り沢山なラッキーな一日となりました。この台風プレゼントされた楽しい一日を、思い出深い三宅島探鳥会を、埼玉県支部のお餞別と思って、私共は北本市から現住所へと移りました。皆さん、どうもありがとうございます。

台風プレゼント パートII

榎本秀和 (鴻巣市)

今年の三宅島探鳥会は帰りの日の朝、波浪が高く、船が接岸できずそのまま東京へトンボ返りしてしまい、私達は一日余分に島へ足止めとなりました。天候には恵まれていたので、船が欠航になったことが何ともピンと来ないまま、どうしても帰りたい人には空港でキャンセル待ちに並んでもらい、それ以外のビデオ撮影組と島巡り組はそれぞれ大いに楽しみました。午後は漁協の上棟式の餅撒きに、キャンセル待ち(全員駄目だった)組も含め皆で繰り出し、そのあと海(大野島=三本岳)を眺めながらの露天風呂にビール。宿では文字どおりの飲みや歌えの大宴会となり、私の記憶もあまり鮮明ではありません。素晴らしかったのは帰りの船上探鳥で、これまでになく海鳥が多く、乗船から下船ま

で、飽きることなく探鳥が楽しめました。台風を回避して海鳥達はかなり北上していたようであり、また、もしかしたら渡りのピークに当たったということもあるかもしれません。コアホウドリやクロアシアホウドリなどのアホウドリ類も10分おきぐらいに出てくれて甲板上は大騒ぎでした。

禍い転じて福と為す。今年の三宅島はほんとうにそんな探鳥会でした。去年の中止といい、今年の欠航といい、担当した私としては「三宅島探鳥会はもう止めだ」とすぐ思ってしまうのですが、帰路の海鳥達の慰めのお蔭で、私は「来年も頑張ってみるか」という気持です。

湯の丸高原探鳥会

宮下光代 (幸手市)

7月28日(晴)、探鳥会に参加するようになって半年余り。貸切りバスでの遠距離は初めて、胸はドキドキです。

バスを降りるとそこは湯の丸高原。青い空、さらっとした風、目にしみる緑、思わず「来てよかった」。

まず池ノ平自然園を一周。道の両側は一面のお花畑。蝶もオレンジ、黒、黄と花に負けじと色鮮やかに飛んでいる。

お目当ての鳥は、赤い前かけのノビタキ夫婦、梢で気持ちよさそうに歌っているビンズイとホオジロ。「ルリビタキ、ホシガラスも出ますよ」とリーダー。それらを期待しながらおいしい昼食。

コマクサ園を通りみはらし岳への途中でメボソムシクイのさえずりを聞き山頂へ。小諸の市街周辺が一望に見渡せて気持が良い。下山途中でルリビタキのさえずりを聞く(姿を見た幸せな方もいます)。

駐車場へ下り休憩していると「ホシガラス!!」の声。目の前の針葉樹林の中に数羽のホシガラスが、枝から枝へ全身を見せながら大サービス。黒地に白の斑点模様、本当に夜空に星が輝くような姿に大感激。誰がホシガラスなんてピッタリの名前をつけたんでしょ

う。

3時すぎ、バスは湯の丸高原を出発。ワイン工場でお土産もでき、和気あいあいと帰路につきました。

コウライウグイスの繁殖 佐藤進 (大宮市)

カッコウの鳴く5月中旬になると、秋ヶ瀬公園(浦和市)に、珍鳥コウライウグイスがやって来ます。今年も5月16日に初認。3年連続の来訪です。

5月末になると、公園内の野鳥園から、隣接する浦和ゴルフ場の敷地内に向かって、巣材をくわえて飛ぶ姿が見られるようになり、多くのウォッチャーたちも注目するようになりました。

間もなくメスの姿がなかなか見られなくなり、オスがゴルフ場内の特定の枝に長い間とまって、カラスやオナガを追い払う行動が観察され、抱卵中であると考えられるようになりました。

秋ヶ瀬公園でしょっちゅう顔を合わせているバードウォッチャーたちの集まり、秋ヶ瀬野鳥クラブというのがありますが、その会員である森田真次さん、中田寛さんと私の3名は、ゴルフ場の許可を得て、立入調査をしました。

6月27日、巣の中のヒナ4羽に、メスがエサを与えているのをビデオ撮影できました。半分消化したものを、吐き出すようにして与えていました。

7月6日と7日に各1羽ずつ、2羽のヒナが巣立ったことが、ゴルフ場の職員たちによって確認されました。残念ながら2羽は巣立ちできなかったようです。



本部の研究センターや山階鳥類研究所に問合せたところでは、コウライウグイスの繁殖・巣立ちは日本初記録とのことでした。

その後ヒナはゴルフ場と野鳥園を歩き来して、親から餌をもらい、すくすく育っています。この写真は、巣立ってから1週間後の7月12日に撮影したビデオからプリントしたものです。

野鳥観察会の報告 増尾 隆・節子 (坂戸市)

坂戸市鶴舞団地自治会の高麗川改修勉強会(児玉達也代表)に依頼を受けた野鳥観察会を、8月4日(日)に開催しました。

建設省が全国11カ所ですすめている「ふるさとの川整備事業」のひとつとして、坂戸市鶴舞地区の高麗川が内定し、「現況を活かして川の流路を保全し、住民が遊べる場所と、自然をそのまま残す場所を分けて整備する」とのことで、野鳥関連では、池や観察舎を造る案だそうです。

市議会における市長の発言では、「専門家や市民、関係者等で構成される検討委員会で来年3月までにまとめ、5年間で完成させたい」という見解が示され、今回の野鳥観察会は、それに対処する地元住民たちの勉強会として計画されたものです。

説明係は、私ども夫婦に加え、黒木昭雄・阪口稔両氏にもお願いしました。

午前9時15分自治会集会所に18人の参加者が集まり、高麗川鶴舞地区河川敷の団地排水路につながる湿地と高麗川に挟まれて低木と草地・藪のある所で11時40分まで観察、カワセミ・オオヨシキリ・コムドリなど23種類を観察しました。



白馬高原探鳥会 96'5月(町田好一郎)

はみ出し行事案内

長野県 戸隠飯綱高原深鳥舎 (要予約)

期日：10月26日(土)～27日(日)

集合：26日午前10時、JR長野駅改札口前

交通：「特急あさま1号」(上野7:00→大宮
7:22→高崎8:10→長野9:51着)、また
は普通電車(高崎7:13→長野9:27着)

費用：10,000円の予定(1泊3食、現地バス
代、保険料など)。万一過不足の場合
は当日清算、現地までの往復交通費は
各自負担。

定員：30名(先着順、県支部会員優先)

申し込み：往復葉書に住所、氏名、性別、年

齢、電話番号を明記して、菱沼一充
()まで。

担当：菱沼(一)、伊藤、岡安、北川

見どころ：野鳥、紅葉、茸、蕎麦、地酒!

これだけ揃えばきっとあなたも大満
足。キビタキなどの夏鳥の居残り組と
アトリなど冬鳥の先発組の競演。マミ
チャジナイや、ムギマキなどの旅鳥も
見所です。

注意：宿泊は男女別相部屋です。個室のご用
意はできません。

連絡先いろいろ

道端に野鳥が降りていたら、まず巢
立ち雛ではないかを確認してくださ
い。巢立ち雛なら、そのままにしてそ
の場から離れてください。親がどこか
から見えています。

ぐったりとしていたり怪我をしてい
て手当てが必要な時は、暗い箱の中
に入れて落ち着かせ、体温が下がらな
いようにしてから、傷病野生鳥獣保護
診療機関にご連絡ください。

治療後のリハビリを担当してくれる
ボランティアによる里親制度がありま
すが、それもこの診療機関で紹介して
くれるシステムになっています。

越谷市の場合は、市独自の傷病野鳥
の保護治療・里親制度があります。連
絡先は、0489-64-2111内線 2257
(越谷市環境部環境保全課環境保全係)
です。

密猟や不法飼育などに関することは、各地の環境管理事務所にご連絡ください。

埼玉県中央環境管理事務所 048-822-5199

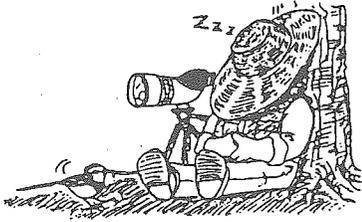
埼玉県東部環境管理事務所 0480-34-4011

埼玉県西部環境管理事務所 0492-44-1250

傷病野生鳥獣保護診療機関

草加市	浜坂動物病院	0489-24-7446
春日部市	森田一獣医科医院	048-735-0532
蓮田市	柿沼動物病院	048-769-1132
川口市	池谷犬・鳥・猫の病院	048-266-6611
大宮市	エンゼル動物病院	048-663-2300
	おおわだ動物病院	048-686-6097
	滝沢犬猫鳥の病院	048-652-2777
上尾市	川口ペットクリニック	048-781-2257
桶川市	ナカムラペット病院	048-771-7970
熊谷市	坂本動物病院	0485-21-2771
	籠原獣医科医院	0485-32-1663
	川田動物病院	0485-25-2284
	あらい犬猫鳥の病院	0485-25-5282
深谷市	田坂どうぶつ病院	0485-71-0508
	アニマルクリニックこばやし	0485-73-1906
志木市	嵯峨獣医科クリニック	048-471-3567
所沢市	所沢愛犬病院	0429-22-2929
坂戸市	坂戸動物病院	0492-89-0090
東松山市	大山獣医科病院	0493-24-2248
秩父市	浅見獣医科医院	0494-23-6624

行事あんない



(渡辺 敦)

特別な場合を除いて予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をおかけください。私達もあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費は一般100円。会員と中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時頃。小雨決行です。

自然保護のため、できるだけ電車バスなどをご利用のうえ、指定の集合場所までおいでください。

千葉県・船橋海浜公園探鳥会

期日：9月8日(日)

集合：午前9時15分 JR総武線船橋駅改札口付近、集合後京成バス9:40発船橋海浜公園行きにて終点下車

担当：佐久間、杉本、菱沼、篠原(東)

見どころ：公園の沖に広がる瀬が三番瀬です。秋の渡りのシギ・チドリ・アジサシ等に加えて、チゴガニ・コメツキガニのディスプレイ、それにフジツボ等の貝の仲間、海岸に生息する多種多様な生物も観察しよう。

注意：日陰がなく日差しも強いので紫外線対策はお忘れなく。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：9月8日(日)

集合：午前9時30分 秩父鉄道大麻生駅前

交通：秩父鉄道熊谷9:11発、または寄居9:03発に乗車

担当：森本、中島(章)、和田、田口、石井(博)、倉崎

見どころ：まだまだ暑いとは言っても、気を付けてみると、そここに秋の気配が感じられます。少し早いかと思うけどコサメビタキ、ショウドウツバメ、シギ・チドリなどの秋の渡り鳥を期待して歩きます。晴れると河原は日差しが強いので防暑対策をお忘れなく。

千葉県・木更津市小櫃川河口探鳥会

期日：9月14日(土)

集合：午前10時30分 金田海岸潮干狩場駐車場

交通：JR新宿8:08発「ホリデー快速内房号(全車自由席)」→姉ヶ崎にて乗換え9:37発→袖ヶ浦9:46着・下車。現地までタクシーにて15分、埼玉からはホリデーバス利用が便利でお得(2000円)

解散：現地にて15時頃

担当：中島(康)、松井、桜庭、新堂、佐藤
見どころ：東京湾に唯一残った広大な自然の干潟に、渡りの途中の鳥達が羽を休めていきます。シギやチドリをはじめ干潟の自然もウォッチング。

注意：柔らかく水気を含んだ砂浜を歩くのでゴム長靴が必要です。防暑対策も。

シギ・チドリ類県内一斉調査

期日：9月15日(日・祝)

埼玉県支部では、春と秋の2回、独自のシギ・チドリ類の調査を行っています。特に下記の地点では、より多くの会員の参加とご協力をお願いいたします。

◆秋ヶ瀬(満和市・大宮市)

集合：午前9時30分 大久保浄水場の北西角付近の土手の上、グラウンド入口。

担当：石井 智

解散は昼ごろの予定。雨天でも行います。調査のため参加費は不要です。

浦和市 三室地区定例探鳥会

期日：9月15日（日・祝）

集合：午前8時15分 京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時 浦和市立郷土博物館前

後援：浦和市立郷土博物館

担当：楠見、福井、渡辺（周）、手塚、伊藤、笠原、若林、倉林、岡部、兼元、森

見どころ：今年の夏は暑かった。まだ残暑は続いているが三室の探鳥会に集まろう。きっといいことがあるだろう。カモや渡りのシギ・チドリ達がやすんでいる。斜面林に久しぶりのエゾビタキが見られるかな。

寄居町・鐘撞堂山探鳥会

期日：9月22日（日）

集合：午前8時30分 秩父鉄道寄居駅北口
交通：秩父鉄道熊谷7:44発、またはお花畑7:45発、東武東上線川越7:20発寄居行き特急に乗車

担当：田口、小池、和田、林（滋）

見どころ：子育てを終えたタカ達も南へと渡る時期になりました。サシバ・オオタカ・ノスリなどが期待できます。今回は集合時間を早くして山頂での渡りの観察をじっくりと行いたいと思います。

狭山市・人間川定例探鳥会

期日：9月22日（日）

集合：午前9時 西武新宿線狭山市駅西口
交通：西武新宿線本川越8:43発、または所沢8:45発に乗車

担当：長谷部、高草木、石井（幸）、藤掛、小野、中村（祐）、山本

見どころ：川辺を歩くと虫の音、足元の草花、吹く風にも秋色ようやく濃くなったことを感じます。渡り途中の鳥との出会いが楽しみな人間川へどうぞ！

『しらこぼと』発つめの会

とき：9月28日（土）午後1時～2時ごろ

会場：支部事務局108号室

カカの渡り調査

期日：9月29日（日）

恒例の調査です。一日空を眺めているだけで、貴重なデータが得られます。初めての方でもお気軽にどうぞ。雨天（小雨でも）中止。この場合10月6日（日）に延期します。調査のため参加費は不要です。

◆天覧山（飯能市）

集合：午前9時から正午まで、ご都合の良い時間に山頂展望台にお越しください。

交通：西武池袋線飯能駅から徒歩30分

担当：佐久間

他に下記の地点でも調査します。

◆鐘撞堂山（寄居町）・山頂

◆堂平山（都幾川村）・天文台下の駐車場

◆物見山（東松山市、鳩山町）・山頂展望台
調査時間は朝から正午過ぎまで、お近くの方はご都合の良い時間にご参加ください。

坂戸市・高麗川探鳥会

期日：9月29日（日）

集合：午前9時 東武越生線川角駅前

交通：東武東上線川越8:12→坂戸にて越生線乗換8:41→川角8:50着、または寄居7:43→小川町乗継ぎ坂戸にて越生線乗換8:25発に乗車

担当：高草木、藤掛、石井（幸）、青山、久保田、志村

見どころ：南へ帰るツバメの群れを見送って、カモ達の着水は9.80の高得点。夏の賑わいも遠くなり、静かになった水辺では、カワセミ、ヤマセミが身近に見られる。そんな期待に応えてくれる所です。

.....

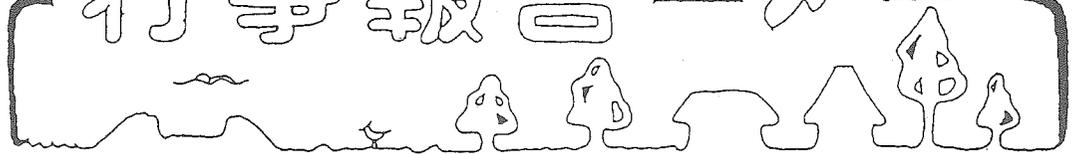
◆10月の行事予定

10月6日（日）北本市石戸宿定例探鳥会
浦和市民家園周辺定例探鳥会

.....

◆行事案内は7頁にも掲載しています。楽しみいっぱいの県外探鳥会の案内です。

行事報告



4月7日(日) 北本市 石戸宿

参加: 59人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オオタカ ハヤブサ コジュケイ キジ クイナ バン キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ ヒヨドリ モズ シロハラ ツグミ ウグイス ヤマガラ シジウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (36種) 歩きだして間もなくシダレザクラ近くの林に2羽のオオタカが飛び込んだ。目の前を通過し、よく見られた。エドヒガンザクラの上空ではカワウの編隊が何度も旋回してくれた。子供公園横の林でフェンス越しにカタクリの花を観察。(岡安征也)

4月27日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 15人

荒木恒夫、江浪 功、海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、尾崎甲四郎、門谷直樹、小林孝太郎、櫻庭 勇、中村榮男、藤野富代、前澤明男、森力、安原久子、谷津弘子

4月28日(日) 東松山市 物見山周辺

参加: 60人 天気: 晴

ノスリ コジュケイ キジバト カワセミ コゲラ ツバメ ヒヨドリ モズ ツグミ ヤブサメ ウグイス シジウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (20種) メジロの鳴き声に送られてスタート。入山沼のカワセミが印象的であった。一寸風はあったが、さわやかで、田、野の花々、山つつじ、八重桜、ボケ、レンゲと色とりどりであった。鳥は少なかったが、自然の豊かさを感じられるコース。(内藤義雄)

4月28日(日) 春日部市 内牧公園

参加: 29人 天気: 晴

コサギ カルガモ タカ sp コジュケイ シラ

コバト キジバト ホトトギス コゲラ ヒバリ ツバメ ヒヨドリ モズ ツグミ ウグイス エゾムシクイ シジウカラ メジロ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (25種) ゴールデンウィークの2日目。晴天の休日で人出も多く、条件は良くない。開始直前から久し振りにシラコバトが出現。初めて見た人もいて皆満足。林の中で、エゾムシクイのさえずりが聞こえていたが、姿を確認できず残念。期待のムナグロは、田圃に水が入っておらず、見られなかった。(吉安一彦)

4月29日(月、休) シギ・チドリ類調査

ボランティア: 18人

浅見健一、浅見 徹、浅見良太、新井良夫、荒木恒夫、石井 智、海老原教子、海老原美夫、佐久間博文、竹内設雄、陶山和良、中村 隆、福井昭子、福井恒人、芳川伸一、吉田時規、吉本富美子、渡辺喜八郎

5月5日(日) 本庄市 坂東大橋

雨のため中止。

5月5日(日) 千葉県習志野市 谷津干潟

雨のため中止。

5月10日(金) 浦和市 秋ヶ瀬公園

参加: 52人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ゴイサギ コサギ カルガモ コジュケイ キジ キジバト カッコウ ツツドリ カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ アカハラ シロハラ ツグミ オオヨシキリ エゾムシクイ センダイムシクイ キビタキ オオルリ エゾビタキ ヤマガラ シジウカラ ホオジロ アオジ カワラヒワ スズメ コムクドリ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (39種) 久々の平日探鳥会。はたして何人の参加者があるか?との心配をよそに、52人の

参加をいただき、しかも前日までの雨もからりと晴れ上がり、新緑も一段と鮮やか。夏鳥の王者オオルリ、キビタキも全員がばっちりと見ることができ大満足でした。(松井昭吾)

5月11日(土) 蓮田市 黒浜沼
参加: 32人 天気: 曇

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ カルガモ チョウゲンボウ キジ バン コチドリ ムナグロ キジバト コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ ツグミ オオヨシキリ セッカ キビタキ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (27種) 集合地点でキビタキが1羽出現し、幸先よいスタート。元荒川沿いをパンやカワウ、オナガなどを見ながら歩き、田植えの行われているあぜ道に入ると、60羽位のムナグロの群れが見られた。(中島康夫)

5月11~12日(土~日) 長野県 白馬山麓
参加: 28人 天気: 晴

コサギ アオサギ カルガモ コガモ トビ ノスリ チョウゲンボウ コジュケイ キジ キジバト アオバト ツツドリ アオゲラ アカゲラ コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ サンショウクイ ヒヨドリ モズ キレンジャク ヒレンジャク コルリ ルリビタキ クロツグミ アカハラ ツグミ ヤブサメ ウグイス メボソムシクイ センダイムシクイ キビタキ オオルリ コサメビタキ エナガ コガラ ヒガラ シジュウカラ ゴジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ ノジコ アオジ アトリ カワラヒワ イカル ニュウナイスズメ スズメ コムクドリ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (59種) 何年ぶりのバスツアー。松本を過ぎ白馬連峰が見える頃、唐花見湿原を散策。鷹狩山では早くもオオルリに面会。姫川湿原では、キビタキに至近距離で遭遇。宿に到着。夕食はオーナー心づくし。少しだけ(?)アルコールを頂き、後は鳥談議と野鳥ビデオ観賞。夜半の大雨も早朝には止み、浅間山でコルリやクロツグミに会えた。焼き立てのパンを頬張りながらモーニングコーヒー。はやる心を押さえながら上部林道へ。いや、出るは出るは。オオルリ、キビタキ、ヒ・キレンジャク、アオバトと山道を駆け足で

ったり来たり。ああ、しんど。にはほめの一步の渡辺オーナー&鳥たちに多謝。(町田好一郎)

5月12日(日) 熊谷市 大麻生
参加: 28人 天気: 晴

カイツブリ カワウ カルガモ トビ サシバ チョウゲンボウ コジュケイ キジ キジバト アマツバメ コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ツグミ ウグイス オオヨシキリ セッカ ムシクイ sp シジュウカラ ホオジロ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (30種) オオルリやキビタキなどの渡りの途中の鳥を期待してのスタートだったが、野鳥の森に入っても声一つ聞こえず、がっかり。それでも、途中の畑でキジを全員で見られたし、サシバやオオヨシキリも見られた。(中島康夫)

5月17~20日(金~月) 東京都 三宅島
参加: 19人 天気: 曇、晴

コアホウドリ クロアシアホウドリ シロハラミズナギドリ オオミズナギドリ ハイイロミズナギドリ ハシボソミズナギドリ オーストンウミツバメ ウミウ ミゾゴイ ゴイサギ アマサギ ダイサギ チュウサギ コサギ クロサギ アオサギ コガモ ミサゴ トビ コジュケイ キジバン ムナグロ キョウジョシギ キアシシギ イソシギ オトウゾクカモメ トウゾクカモメ シロハラトウゾクカモメ ウミネコ ウミスズメ カンムリウミスズメ カラスバト キジバト カッコウ ホトトギス アオバズク アマツバメ カワセミ コゲラ ツバメ ヒヨドリ モズ ミソサザイ コマドリ コルリ イソヒヨドリ アカコッコ ツグミ ウグイス ウチヤマ(シマ) センニュウ オオヨシキリ イイジマムシクイ キビタキ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ スズメ ハシブトガラス (62種) 島では、鳥も料理も期待どおりだったが、台風のために帰る日の船が欠航という超ハプニング。1日遅れの帰りの船上では、台風を避けて北上したものか、海鳥が数多く見られた。アホウドリ類も東京湾に入るまで、10分おきぐらいに姿を見せ、時には一度に3羽も現われた。また、小笠原海域でないと見られないはずのシロハラミズナギドリやグンカンドリとおぼしき鳥が出るなど、甲板は盛り上がった。(榎本秀和)

連絡 中長

●鳥獣保護区設定に関する要望書提出

県で現在策定中の第8次鳥獣保護事業計画(対象期間:平成9年度~13年度)に対し、当支部では、7月31日付け県環境部長宛て、次のような要望書を提出しました。

「近年一般県民の自然志向が強まり、県下全域において多くの県民が自然散策・自然観察を楽しむようになり、狩猟を行うものと一般県民の距離が日常的に縮まり、事故の危険が増大しつつある一方、貴重な自然資源・野生鳥獣は日々減少しつつあります。この現状からすれば、県内すべてを少なくとも銃猟禁止区域に指定すべきと考えますが、特に次の3箇所については、銃猟禁止区域に指定して頂きたく、重点的に要望します。

- 1, 坂東大橋銃猟禁止区域の上流、上里町烏川・神流川銃猟禁止区域に至る地域。
- 2, 美里南部銃猟禁止区域の南側、金尾山銃猟禁止区域の東側に当たる寄居町鐘撞堂山とその周辺地域。
- 3, 行田銃猟禁止区域に接するさきたま古墳公園周辺地域。」

各地域の要望の理由についての詳細は省きますが、野鳥の越冬地として重要なところ、銃猟による事故が懸念されるところというのが、主な理由です。

●第2回NTTワールド・バード・カウント

昨年10月8日に開催されたバードソンは、第1回のワールド・バード・カウントを兼ねていたのはご存じでしたか。日本国内のバードソンの結果も合わせて、世界51の国と地域から2,764種の野鳥が報告され、1種類につき10ドル、全部で27,640ドルが、NTTからバードライフ・インターナショナルに寄付されました。

第2回の今年は、9月28日(土)~10月13日(日)の期間中に世界各地で観察された野鳥1種につき1,000円がバードライフ・インターナショナルに寄付されます。

当支部は、期間中の支部探鳥会で観察され

た種を報告することで、このイベントに参加します。

各自が探鳥会以外の観察記録をお送りいただく場合は、次の宛て先どうぞ。

FAX 0120-238666

電話 0120-004361

電子メール r-bird@wnn.or.jp

問い合わせ電話番号は、0120-017412です。

●9月の事務局 土曜と日曜の予定

14日(土) 編集会議、研究部会

21日(土) 校正作業

21日(土) 役員会議

28日(土) 袋づめの会

●会員数は

8月2日現在2,660人です。

活動報告

7月1日 『しらこぼと』7月号発送作業。

7月13日 8月号編集会議。研究部会。

7月20日 8月号校正作業(海老原美夫、喜多峻次、桜庭勇、新堂克浩)。

7月21日 役員会議(司会:工藤洋三、各部の報告・ワールドバードカウント参加・鳥獣保護区設定要望・トランシーバー購入・役員会のあり方・その他)。

7月29日 『しらこぼと』8月号発送作業。

7月29日 鳥獣保護区設定に関する要望書作成(事務局)。

編集後記

騒々しくて暑い日が続き、ウーロン茶や十六茶の2ℓペットボトルのカラを量産してしまった。水っぱく夏太りする私は、水瓶座の生まれ。(海老原)

職場の仲間と富士山に登りました。日本で最初に探鳥会が行われたという須走から入山しましたが、夜中に登ったので、何も聞こえません。帰りはさすがにメボソムシクイヤリリビタキが賑やかでした。疲れたので、今月の野鳥情報は、お休みです。(藤原)

『しらこぼと』1996年9月号(第149号) 定価100円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 松井昭吾 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
 〒336 浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号 郵便振替 00190-3-121130
 印刷 関東図書株式会社 (本誌掲載記事の無断転載はかたくお断わりします)